

【漁況】

[マアジ]

1. 漁獲量の動向（農林統計）

全国のマアジの漁獲量は，昭和40年の53万トン进行ピークに減少傾向となり，昭和55年には5万4千トンとなりました。その後増加傾向に転じ，平成8年には33万トンまで増加し，30万トン台を維持しながら，平成9年は32万3千トン，平成10年は31万1千トンでした。しかし，平成11年には大きく減少し20万7千トン（速報値）となりました。

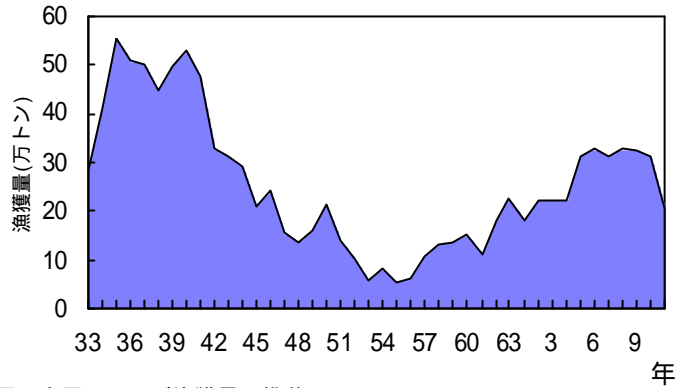


図 全国のマアジ漁獲量の推移

2. 12年7～9月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では，甕島周辺（7～9月），川内沖（7・8月），串木野沖（8月），阿久根・長島沖（8・9月）に，薩南海域では，開聞沖（8・9月），馬毛島周辺（9月）に漁場が形成されました。

4港計では，アジ仔（0歳魚・平成12年生まれ）主体に1,178トンの水揚げで，7月に北薩海域で順調な加入が見られ，前年を上回ったものの，8・9月は前年・平年を下回り，前年及び平年の83%及び24%でした。平成12年生まれの加入群は，平成11年生まれ群より大きいと考えられますが，期後半の漁獲量は減少傾向となっています。

3. 12年10～12月期の見とおし

漁獲の主体は豆アジ・アジ仔（0歳魚・平成12年生まれ）で，来遊量は前年を上回り，平年を下回るでしょう。

（根拠）

主漁獲対象となる平成12年生まれの加入群（0歳魚）は，平成11年生まれ群より大きいと考えられます。

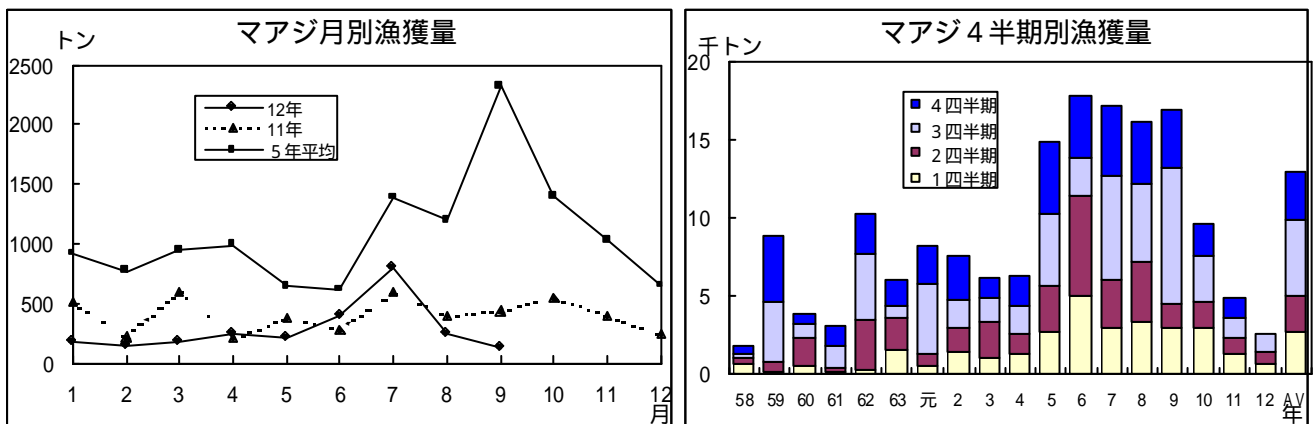


図 マアジ漁獲量変化（4港計）

平年値は過去5年（平成7～11年）の平均値，平成12年9月は20日までの水揚量を使用。

[サバ類]

1. 漁獲量の動向（農林統計）

サバ類の漁獲量は、昭和53年の160万トンにピークにマサバ資源水準の低下により年々減少し、昭和57年には72万トンとなりました。その後は、ゴマサバの増加により大幅な漁獲量の減少は見られませんでした。昭和63年以降はゴマサバの資源水準も低下したため、サバ類の漁獲量は大きく減少し、平成3年には26万トンとなりました。その後、増加傾向に転じ平成9年は84万9千トンとなりましたが、再び減少傾向となり平成11年は37万6千トン（速報値）でした。

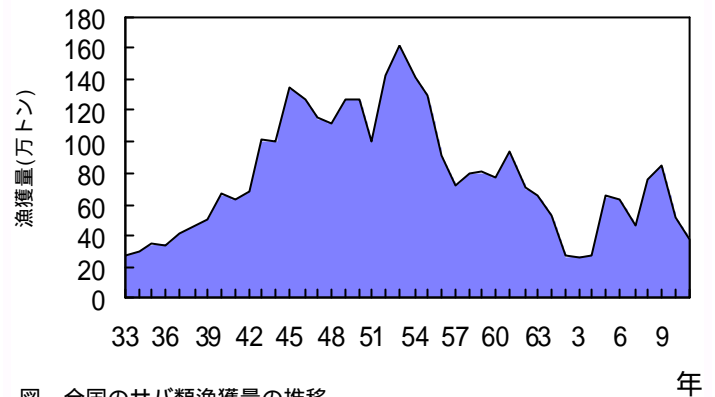


図 全国のサバ類漁獲量の推移

2. 12年7～9月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では、甕島周辺（9月）に、薩南海域では、湯瀬周辺（7～9月）、馬毛島周辺（8月）に漁場が形成されました。

4港計では、中ゴマサバ（1歳魚・平成11年生まれ）主体に2,058トンの水揚げがあり、前年及び平年の79%及び70%でした。7・8月は前年・平年を上回りましたが、9月は低調となりました。

3. 12年10～12月期の見とおし

漁獲の主体は、豆～中サバ（0・1歳魚）で、来遊量は、前年・平年を下回るでしょう。（根拠）

7～9月期の漁獲状況から、平成12年生まれ群の加入は、平成11年生まれ群より小さいと判断されます。平成11年生まれ群の漁獲も多くは期待できません。

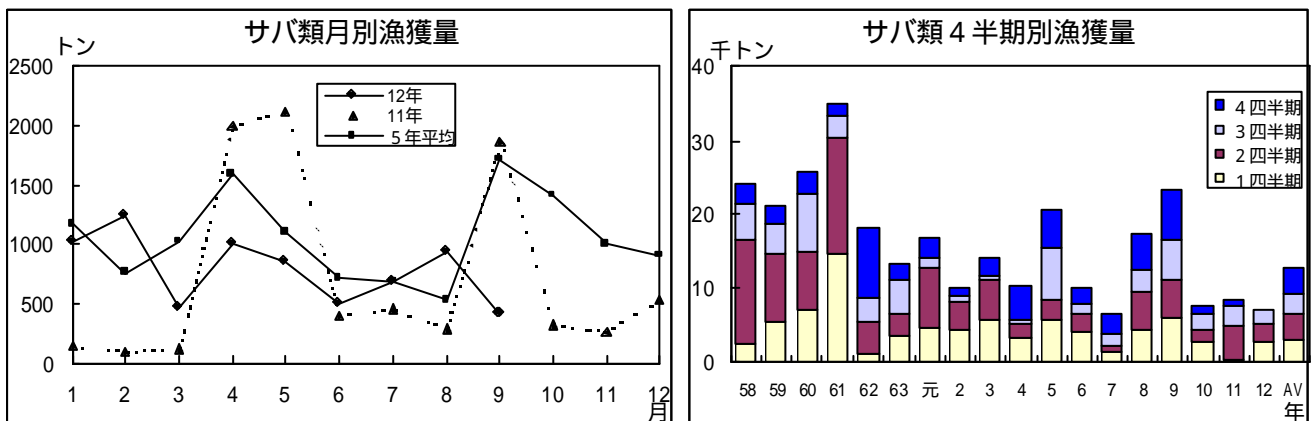


図 サバ類漁獲量変化（4港計）

平年値は過去5年（平成7～11年）の平均値，平成12年9月は20日までの水揚げ量を使用。

[マイワシ]

1. 漁獲量の動向（農林統計）

全国のマイワシの漁獲量は、昭和30年代から40年代にかけての不漁期の後、昭和48年頃から増加の傾向が見られ、昭和63年には449万トンまで増加しました。しかし、平成元年から三陸沖を中心に漁獲量が減少し始め、その後もマイワシの若齢魚の減少等により、全国的に漁獲量は減少を続け、平成7年には66万トンとなりました。平成9年は28万4千トン、平成10年は16万7千トンとなりました。平成11年には若干資源が回復し、34万8千トン（速報値）となりました。

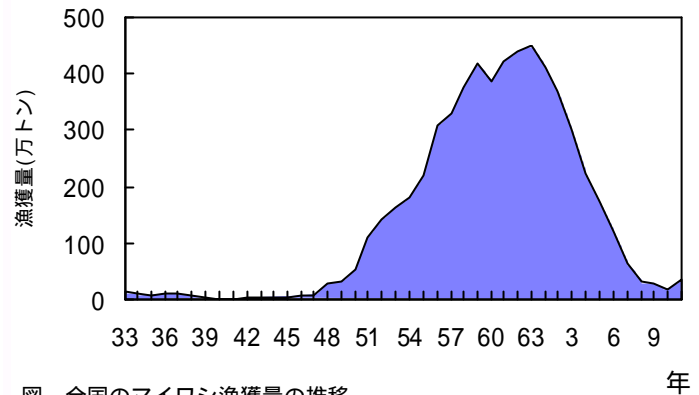


図 全国のマイワシ漁獲量の推移

2. 12年7～9月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では、長島沖（7・8月）、甕島周辺（8月）で、ウルメイワシ等に混獲され水揚げがありました。

4港計では、67.5トンで前年及び平年の260%及び6%でした。

低水準期（平成8～11年）の4ヶ年平均値との比較では13%でした。

3. 12年10～12月期の見とおし

漁獲の主体は中羽イワシ（0歳魚・平成12年生まれ）で、来遊量は、前年を下回るでしょう。

（根 拠）

マイワシの資源状態は低水準にあり、まとまった漁獲は見られないと考えられます。

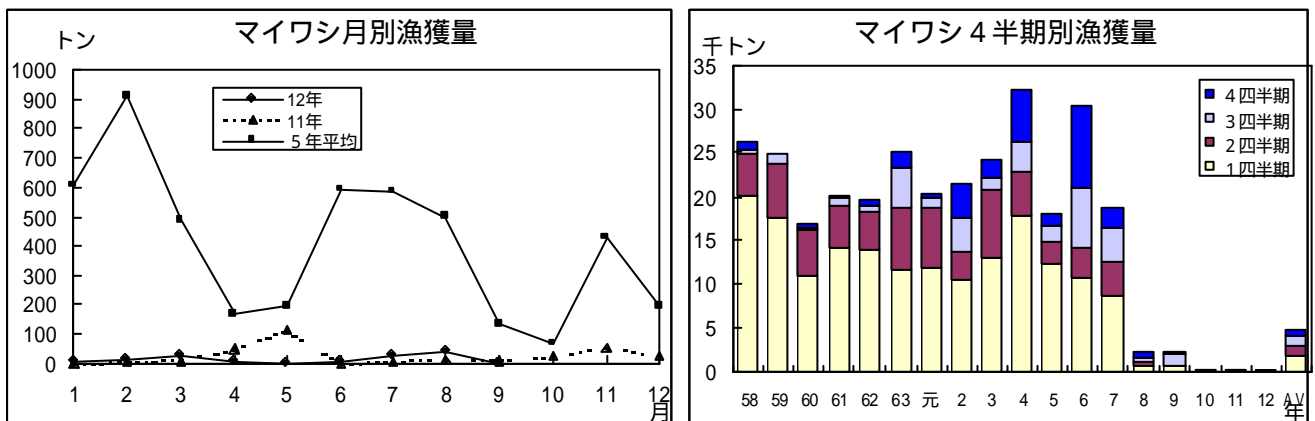


図 マイワシ漁獲量変化（4港計）

平年値は過去5年（平成7～11年）の平均値，平成12年9月は20日までの水揚量を使用。

[ウルメイワシ]

1. 漁獲量の動向（農林統計）

全国のウルメイワシの漁獲量は、昭和30年代後半から40年代前半にかけて3万トン前後で推移していましたが、昭和46年から54年まで5万トン前後で推移しました。昭和55年以降、漁獲量は減少し昭和60年には3万トンとなりましたが、その後増減を繰り返しながら、増加傾向を示し、平成6年に6万8千トンとなりました。その後減少傾向に転じ、平成9年は5万5千トン、平成10年は4万8千トン、平成11年は2万9千トン（速報値）でした。

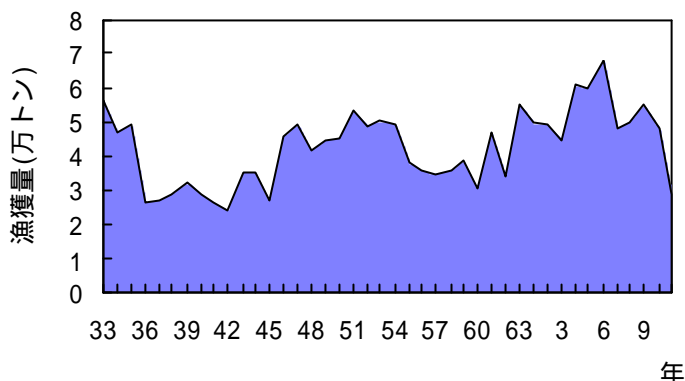


図 全国のウルメイワシ漁獲量の推移

2. 12年7～9月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域の長島沖（7・8月）、甌島周辺（8・9月）に漁場が形成されました。

薩南海域ではまとまった漁獲は見られませんでした。

4港計では、318.4トンで、前年及び平年の62%及び20%でした。北薩海域で8月に小羽～中羽が161トン水揚げされ前年・平年を上回りましたが、9月は低調となっています。

3. 12年10～12月期の見とおし

漁獲の主体は中羽ウルメ（0歳魚・平成12年生まれ）で、来遊量は前年・平年を下回るでしょう。

（根 拠）

平成10年12月以降の漁獲状況は低調となっています。

前期の漁模様から 漁獲量の大半を占める薩南漁場への来遊は少ないと考えられます。

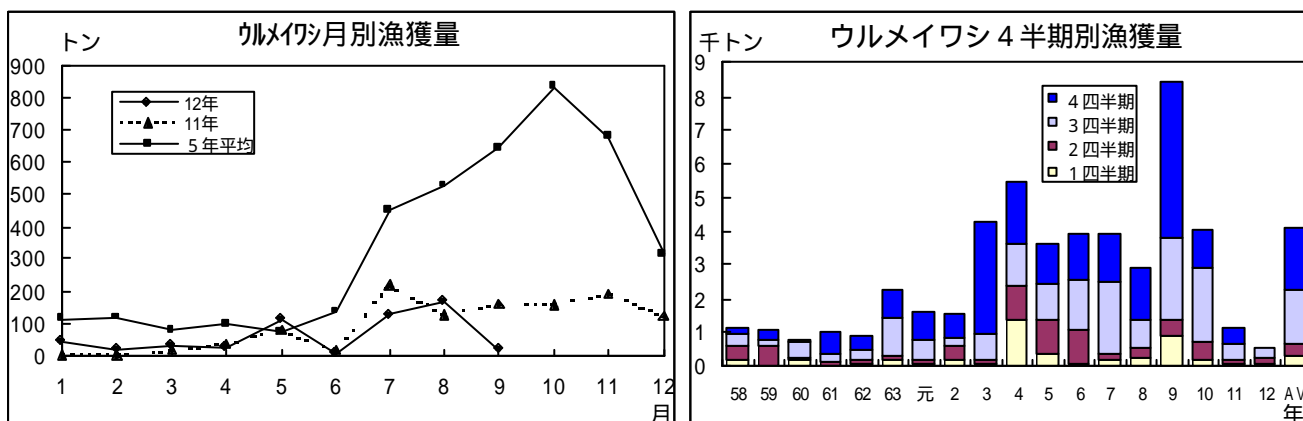


図 ウルメイワシ漁獲量変化（4港計）

平年値は過去5年（平成7～11年）の平均値，平成12年9月は20日までの水揚量を使用。

[カタクチイワシ]

1. 漁獲量の動向（農林統計）

カタクチイワシの漁獲量は、昭和48年まで30万トン台で変動していましたが、昭和49年以降減少傾向となり昭和54年には13万トンとなりました。その後、徐々に漁獲量は増加し昭和59年には22万トンとなりましたが、昭和62年には再び14万トンまで減少しました。昭和63年以降は大きく増減を繰り返し平成9年は23万3千トン、平成10年は47万トン、平成11年は過去最高の48万トン（速報値）となりました。

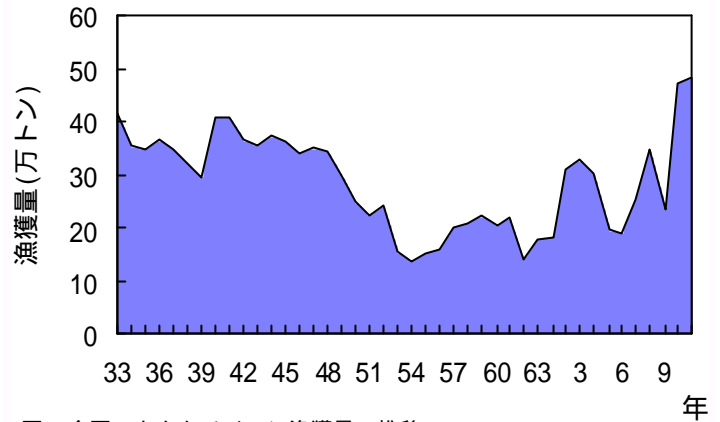


図 全国のカタクチイワシ漁獲量の推移

2. 12年7～9月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域の長島・阿久根沖（7～9月）に漁場が形成されました。

4港計では、小羽～中羽主体に253.8トンで前年及び平年の70%及び93%でした。8月は低水準ながら前年・平年を上回りました。

3. 12年10～12月期の見とおし

漁獲の主体は中羽カタクチで、来遊量は、前年を下回って、平年並みでしょう。

（根拠）

平成9年11月以降高い来遊水準を維持しています。

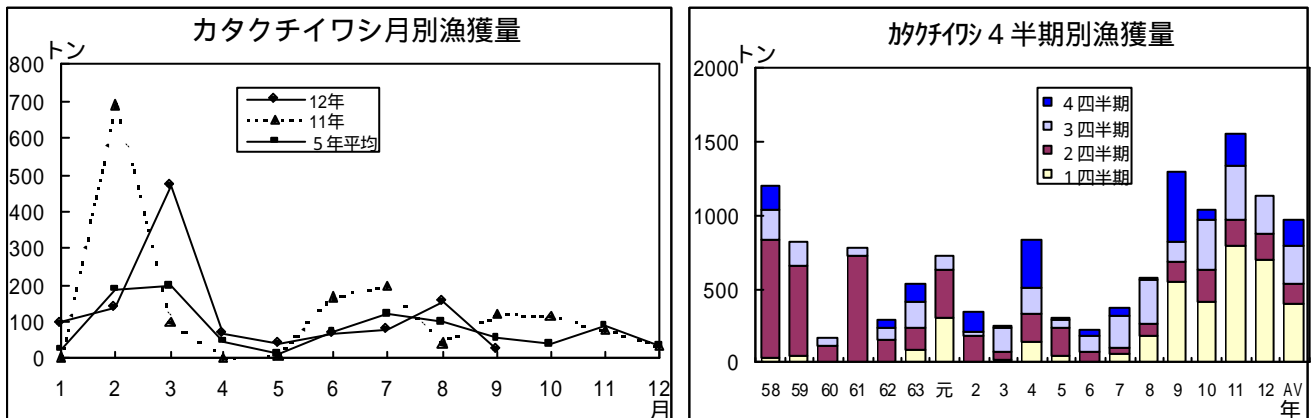


図 カタクチイワシ漁獲量変化（4港計）

平年値は過去5年（平成7～11年）の平均値，平成12年9月は20日までの水揚量を使用。

[その他の魚種]

ムロアジ類 (4 港計)

1. 経年変化及び12年7～9月期の漁況の経過

ムロアジ類の漁獲量は、平成2年の21,700トンピークに減少傾向を示し、平成8年は3,108トン、平成9年はやや増加し3,853トン、平成10年は3,819トン、平成11年は昭和58年以降最低の2,299トンとなりました。

主に薩南海域で漁獲があり、7～9月期全体では316.5トンで前年及び平年の77%及び107%でした。

2. 12年10～12月期の見とおし

来遊量は、平年を下回り、前年並みでしょう。

オアカムロ (4 港計)

1. 経年変化及び12年7～9月期の漁況の経過

オアカムロの漁獲量は、平成元年の5,300トンピークに減少し、平成6年には1,823トンとなりましたが、その後は増加傾向となり、平成8年には3,451トンとなり、平成9年はやや減少し3,063トン、平成10年は3,413トン、平成11年は2,076トンとなりました。

主に薩南海域で漁獲があり、7～9月期全体では456.9トンで前年及び平年の540%及び108%でした。

2. 12年10～12月期の見とおし

来遊量は、前年・平年を上回るでしょう。

マルアジ (アオアジ) (4 港計)

1. 経年変化及び12年7～9月期の漁況の経過

マルアジの漁獲量は、平成2年以降低調に推移しましたが、平成7年には1,430トンに増加し、平成8年は1,083トン、平成9年は684トンと減少しましたが、平成10年は1,062トン、平成11年は再び減少し639トンでした。

主に北薩海域で漁獲され、7～9月期全体では51.1トンで前年及び平年の39%及び71%でした。

2. 12年10～12月期の見とおし

来遊量は、前年・平年を上回るでしょう。

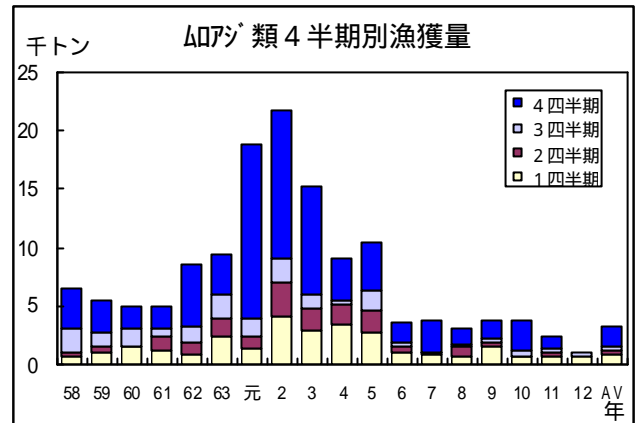
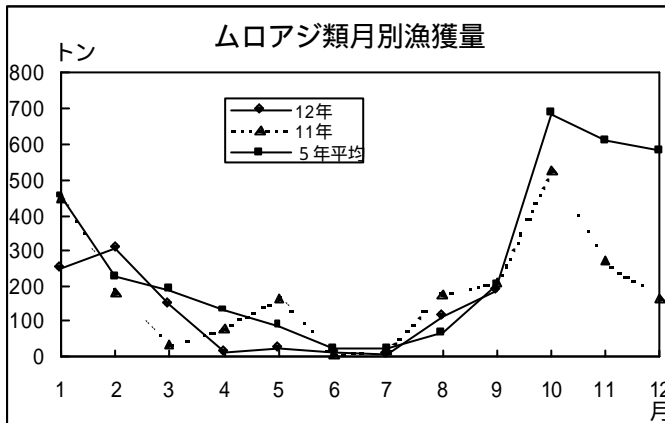


図 ムロアジ類漁獲量変化(4港計)

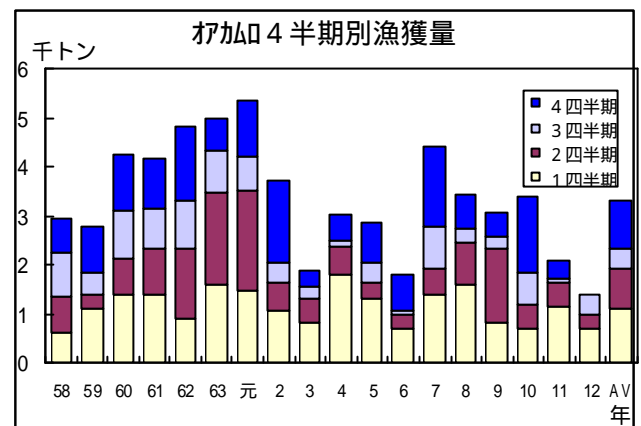
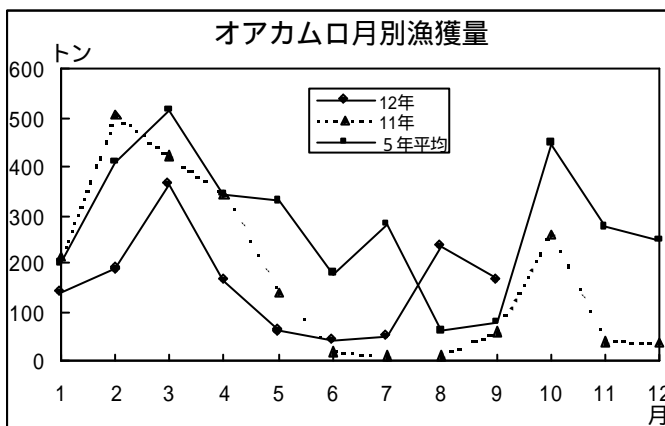


図 オアカム口漁獲量変化(4港計)

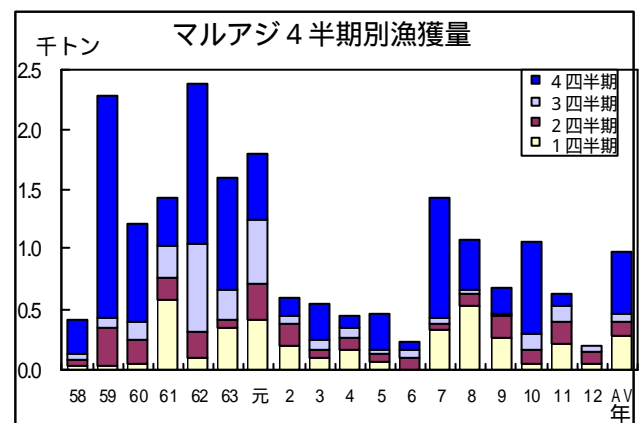
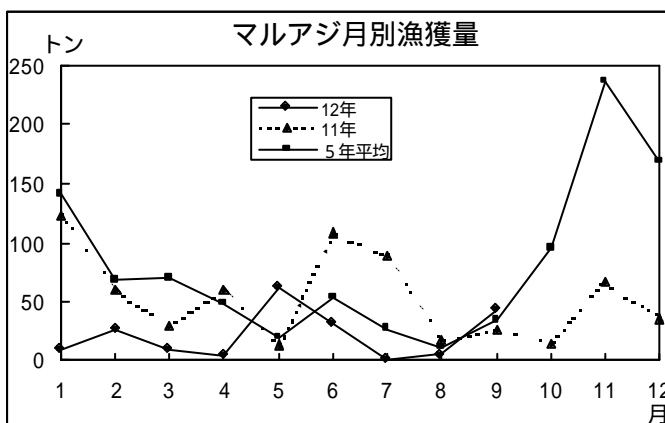


図 マルアジ(アオアジ)漁獲量変化(4港計)

平年値は過去5年(平成7~11年)の平均値,平成12年9月は20日までの水揚量を使用。